



ねらい	自分を主人公とした災害時の物語を作成し、災害を自分事として捉え、防災意識を高める
対象	小学校3年生以上
人数	何人でも
時間	1時間～2時間
場所	大研修室「おおぐま」、研修室「こぐま」など
持ち物	筆記用具、原稿用紙（タブレットやPCなども可）

事前準備

- 原稿用紙（文書作成ソフトのあるタブレットやパソコン等の情報端末での作成も可）を用意します。
※ネイパル厚岸ホームページから原稿用紙（STEP 1～5）をダウンロードできます。
- 指導者は、地域の災害リスクや日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定、避難所の場所等について、事前に確認してください。

実際の活動

- 巨大地震発生日時や天気などを決定する。
- 物語を書く時のルール【希望をもって、物語は終えること】を確認する。
- 災害発生時の段階を確認する。（STEP 1～5）
 - STEP 1：災害発生前について
 - STEP 2：緊急地震速報がなった時について
 - STEP 3：巨大地震が発生した時について
 - STEP 4：大津波警報が出て、避難する様子について（内陸部の場合は、土砂崩れ等を想定）
 - STEP 5：避難所について
- 自分を主人公として物語を書く。
 - 「その時、自分は何をしているのか」
 - 「家族はどこで何をしているのか」
 - 「自分はどんな気持ちになるか」
 - 「まちの様子はどうか」 などを想像します。
- 全体で交流する。

留意点

- 過去の災害や地域の災害リスク、避難行動の在り方等について事前指導を行い、災害時の様子を詳しく想起できるようにすることで、ねらいにより迫ることができます。

考案

慶應義塾大学 大木 聖子 氏

アクティビティ作成指導・助言

北海道教育大学釧路校 境 智洋 氏